

## 地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：小規模多機能ホーム きいちご倶楽部

施設種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日 時：平成28年8月17日 15時～16時

会 場：きいちご倶楽部 宿泊者用居間

出席者  
(人数)

利用者代表	0人	有識者	2人
利用者家族	1人	高齢者あんしん支援センター職員	1人
地域住民の代表	1人	出雲市職員	1人
その他（法人理事長、管理者、介護主任）			3人

(議題)

1. 利用の現状
2. 委員からの質問、意見
3. その他

(報告事項)

### 1. ご利用の状況

4月以降、延べ7人のご利用登録があるが、うちおふたりはグループホーム、老人保健施設への入所により解約されている。またおひとりは入院中で退院後は施設への入所を希望されている。このため現在実質のご利用登録は4人である。

7月以降のご利用の変化として、訪問の回数が増えている。これは7月からご利用の方が毎日訪問を行っているためである。

### 2. 6、7月の主な活動、行事

8月に発行した「きいちご便り」2号に沿って、七夕、お誕生日、ひかり保育園との交流など月の行事や活動をご報告した。

### 3. 各ご利用者のケア、課題の要点

4人のご利用者について、ご利用の様子、ケアする上で努めている点などをご報告した。

(会議の内容…評価、要望、意見、助言等)

・登録利用者が現在4人となっていることから、ご利用者が増えるように努力してゆくことが必要である。そのために必要な方法について下記のご意見をいただいた。

・地域の居宅介護支援事業所を訪問してケアマネージャーに「きいちご」について知っていただく活動が不十分である。管理者（ケアマネ）がそのことに力をそそぐこと必要である。

・地域の一般の方やケアマネに対して「きいちご」のPRのため、介護保険や小規模多機能ホーム、「きいちご」の特色などをわかりやすく説明した資料を作成すべきである。

・「きいちご」について地域の一般の方に知っていただくために、当初予定されていたように、そうした方々も参加できる公開の活動を企画して実施する。

・委員もできることは協力する。

(文責 山崎賢二)